

**製品名: hnRNP D0 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12141**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	38kDa

**抗原情報**

遺伝子名	HNRNPD
別名	HNRNPD; AUF1; HNRPD; Heterogeneous nuclear ribonucleoprotein D0; hnRNP D0; AU-rich element RNA-binding protein 1
遺伝子 ID	3184.0
SwissProt ID	Q14103
免疫原	抗血清はヒト hnRNP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 49-98

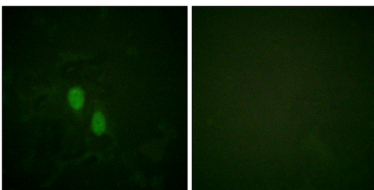
**背景**

この遺伝子は、普遍的に発現する異種核リボ核タンパク質 (hnRNP) のサブファミリーに属します。hnRNP は核酸結合タンパク質で

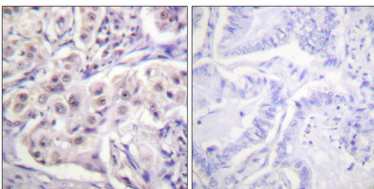
あり、異種核 RNA (hnRNA) と複合体を形成します。これらのタンパク質は核内の pre-mRNA と関連しており、pre-mRNA のプロセッシングや mRNA 代謝・輸送の他の側面に影響を及ぼすと考えられています。すべての hnRNP は核内に存在しますが、一部は核と細胞質の間を往復しているようです。hnRNP タンパク質はそれぞれ異なる核酸結合特性を持っています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、RNA に結合する準 RRM ドメインの繰り返しを 2 つ有します。このタンパク質は核と細胞質の両方に局在します。このタンパク質は mRNA の安定性の調節に関与しています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、4 つの転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: 多くのプロトオンコゲンおよびサイトカイン mRNA の 3'-UTR 内に存在する AU リッチエレメント (ARE) を含む RNA 分子に高い親和性で結合します。また、二本鎖および一本鎖 DNA 配列に特異的に結合し、転写因子として機能します。各 RNA 結合ドメインは、一本鎖の非単調な 5'-UUAG-3'配列にのみ特異的に結合し、一本鎖の 5'-TTAGGG-3'テロメア DNA リピートにはより弱く結合します。5'-UUAGGG-3'リピートを持つ RNA オリゴヌクレオチドは、テロメアの本鎖 DNA 5'-TTAGGG-3'リピートよりも強く結合します。RRM1 が DNA に結合すると、テロメア伸長に役割を果たす可能性のある DNA 四重鎖構造の形成が阻害されます。翻訳的に共役した mRNA のターンオーバーに関与している可能性がある。主要コード領域不安定性決定因子 (mCRD) ドメインを介した FOS mRNA の細胞質脱アデニル化 / 翻訳および崩壊の相互作用において、他の RNA 結合タンパク質と関与している。、PTM: Arg-345 はジメチル化されており、おそらく非対称ジメチルアルギニンとなっている。、配列注意: 汚染配列。N 末端部に由来不明の配列が含まれている。、配列注意: 複数の配列競合がある。、類似性: 2 つの RRM (RNA 認識モチーフ) ドメインを含む。、細胞内局在: リボヌクレオソームの構成要素。、サブユニット: FOS mCRD ドメインに関連する複合体の一部であり、PABPC1、PAIP1、CSDE1/UNR、および SYNCRIP からなる。IGF2BP2 と相互作用する。、

## 研究分野

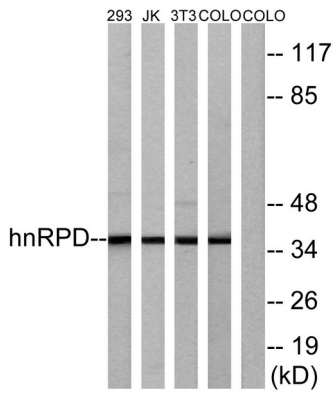
## 画像データ



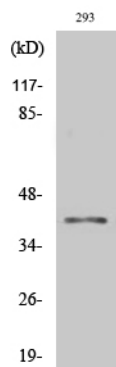
hnRPD 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



hnRPD 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



hnRPD 抗体を用いた 293、Jurkat、3T3、および COLO205 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



hnRNP D0 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析